

- 10周年記念特別講座  
KONISHIKIさんとフリートーク
- 全国盲導犬施設連合会 10年の歩み
- これまでの10年、これからの10年
- もっともっと、盲導犬を
- 加盟施設のご紹介
- 全国盲導犬施設連合会はこんな働きをしています
- 街で盲導犬に出会ったときは
- 盲導犬はこんな一生を送ります
- 主な活動報告

'05 全国盲導犬普及キャンペーン

デュエット

# Duet

10th Anniversary

GUIDE DOG MAGAZINE



みんなの力で、  
もっと盲導犬を育てようよ。

## 盲導犬マガジン DUET 第14号

---

全国の盲導犬育成施設の緊密な連携のもとに、視覚障害者福祉の向上に寄与することを目的に発足した「全国盲導犬施設連合会」は、2005年4月をもちまして10周年を迎えました。市民の善意に支えられる福祉団体として、不安定な財政基盤ながらも歩一歩と歩み続けてこられたのも、盲導犬育成・普及に深い理解をもって応援して下さる皆さまのおかげと、心より感謝いたしております。

また日本で初めて盲導犬が誕生してから半世紀を迎えようとしており、今はちょうど節目となる時期ではないかと考えております。この間、盲導犬使用者、盲導犬協会等をはじめ多くの支援者たちと共に、盲導犬の受入を法的、社会的に認めてもらうための努力を積み重ねてまいりました。1978年道路交通法に盲導犬の通行が規定され、さらに2003年に「身体障害者補助犬法」が施行され、盲導犬をはじめとする補助犬の受入が法的に保障されたのは、誠に喜ばしい限りです。障害者がいつでも、どこへでも他の人の手を煩わせることなく、自由かつ安全に行動できることは、障害者の自立と社会参加にとって大きな前進です。しかし、盲導犬は未だ大幅に不足しているのが実情です。

当連合会はこのような現状を改善していくために、10周年を機として、これまで以上に活発に啓発活動や各施設への支援活動等を展開してまいりたいと考えています。

今後とも、なおいっそうのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

全国盲導犬施設連合会 会長 塩濱 良夫

# KONISHIKIさんと リートーク。

相撲さんとして現役時代は超強  
な大関として活躍し、今ではマ  
チタレントとして大人気の  
KONISHIKI (小錦八十吉) さ  
10周年のお祝いに、盲導犬  
成・普及の宣伝役を買って出て  
ごさいました。そこで撮影スタ  
オを3人の盲導犬ユーザーが訪問し、楽しくおしゃべりさせていただきました。(文  
放称略)



## おしゃべりした人のプロフィール



「盲導犬のおかげで、自  
分の障害を受け入れら  
れた気がする。」どこで  
も出かけていく行動  
派。KONISHIKIさん  
の、人生にまじめに、  
でも自然体で取り組む  
姿勢に心から共感して  
いました。盲導犬ユー  
ザー歴7年。パートナー  
はラブラドルレトリ  
バーのアリス。



大好きなKONISHIKIさ  
んに会えて、感激ひと  
しきり。おしゃべりの  
後で、「私が元気に暮ら  
しているのは、家族と  
アンソニーと、たく  
さんの人たちに出会  
えたおかげ、心から感  
謝しています。」盲導犬  
ユーザー歴半年。パー  
トナーはラブラドル  
レトリバーのアンソ  
ニー。



撮影後、KONISHIKIさ  
んのお顔や肩に触らせ  
ていただいて、あまり  
の大きさにびっくりす  
るやら感心するやら。  
「それは、ソファーだ  
よ」というKONISHIKI  
さんの冗句も信じてし  
まいそうなほどでし  
た。盲導犬ユーザー歴  
11年。パートナーはゴ  
ールデンレトリバー  
のイフー。

## 相撲があったから、今がある。

**早川**

KONISHIKIさん、本当に大きいですね。小さい時から、大きかったんですか。

**KONISHIKI**

小さい時は、小さいよお。こんなでつかくて、生まれないもん。(笑)

**内藤**

身長や体重は、どのくらいですか。

**KONISHIKI**

身長は186センチ、体重280キロ。足は16センチ、ああ違う、16インチだから、36センチくらい。ちっちゃいでしょ。(爆笑)昨日よりちっちゃくなっちゃったんだよ。(大爆笑)

**櫻井**

でも、そんなに、大きいと大変じゃないですか。

**KONISHIKI**

スポーツやってたから動けるんだね。ボクはスポーツが大好き。ボクシングとかゴルフとかサーフィンとかフットボール、それとウエイトリフティングはハワイのチャンピオンだった。

**内藤**

日本に来るきっかけはどうだったんですか。

**KONISHIKI**

卒業前に高砂部屋の人から声をかけられた。でも相撲なんて知らなかったし、説明してもらってもぜんぜん理解できなくて、その時は断ってた。

**早川**

じゃあ、完全に断ってたら大変でしたね。



'82年ハワイ大学付属高校卒業後、高砂部屋に入門。5年で大関に昇進し、'97年に引退。数々のスポーツ賞の他、多彩な受賞歴を持つ。「KONISHIKI基金」を設立し福祉活動も実施。NHK教育「にほんごであそぼ」レギュラー出演、各地でライブやイベントなどに出演、ハワイアン音楽のCDの発表、書籍執筆など大活躍中。  
ホームページ  
<http://www.konishiki.net>

## KONISHIKI

うん。でもスポーツも格闘技も大好きだったから、相撲がやれてよかった。相撲から学んだことがいっぱいあったし、一生けんめい教えてもらえたし、相撲があったから今がある。それにボクには目的があった。うちが貧しい方だったから、家族を助けたかったんだ。強くなればみんな喜んでくれるから。

## 内藤

それで日本で一人で働くことにしたんですか。

## KONISHIKI

大学行くにもお金がかかるし、相撲やれば、誰にも迷惑かけないでしょ。

## 櫻井

親孝行ですよ。

## KONISHIKI

ボクは、親が大好き。親がいなかったら、強くなれなかった。一生けんめい育てもらったから、ボクも精一杯やって親を幸せにしたい。それがボク自身の幸せだよ。

## うちの家族は、相撲より厳しかったよ。

## 早川

ご兄弟は、何人いるんですか。

## KONISHIKI

10人。ボクは、下から2番目。

## 内藤

たくさんいらっしゃるんですね。

## KONISHIKI

多い方がぜったい楽しいよ。ケンカも多いけど、思い出がいっぱいある。オヤジがすごく厳しい人でね、兄弟それぞれに役目があって、ボクの家は相撲界より厳しかったよ。

## 櫻井

えー、でも、お相撲さんの世界ってすごく厳しいんでしょう。

## KONISHIKI

うちは家族の中でも先輩後輩があった。お姉ちゃんお兄ちゃんには、絶対頭あがない。言われた通りにやらないとダメ。



## 早川

うちでのお手伝いは、なんの役目だったんですか。

## KONISHIKI

小学校3年の時から、家の掃除やトイレ掃除も。自分の洋服は自分できちんとしてたし。

## 早川

7歳か8歳の子供が、ちゃんと家の仕事をしてるんですね。

## KONISHIKI

お姉ちゃんなんか、晩ご飯の準備もしてたよ。みんな学校や仕事から帰ってきてから、家での役目をやる。6時頃に家族がそろると、お祈りして晩ご飯になるけど、ご飯の席も上から順番。小さいころは大人と一緒にテーブルに座れない。そういうことが、今も守られてる。

## 内藤

昔の日本みたいな感じですね。昔は私たちの家にも、そういうことがありました。

## KONISHIKI

それは人間としてとても大切な教えだと思う。昔の日本みたいってよくいわれるけど、家族のルールをなくしてしまうのは、子供がかわいそうだよ。

## お父さんは、家族が趣味だった。

## 内藤

確かに日本でも、昔のお父さんは怖かったですね。

## KONISHIKI

ボクもオヤジは怖かったけど、頼もしいすごく優しい、憧れだった。家族をすごく大事にした。そんな中で育つと、家族が大好きになる。オヤジは自分の家族が趣味だったんだなって感じる。

## 櫻井

うちの父も頑固で厳しい人でした。去年亡くなったんですけど、話しかけるのも怖かった。



## KONISHIKI

親は厳しい方がいい。家族がいちばんの勉強なんだから。今の世の中、お金がないと楽しくないみたいになってるけど、そんなことない。家族といればそれだけで楽しいよ。

## 櫻井

私は耳にも傷害があるんですけど、父はいつも私が幸せになれるだろうかって心配してくれていたそうです。亡くなる前に、母からそんな話を聞かされて、父の前で泣いちゃったんです。

## KONISHIKI

ボクも三年前にお母さんを亡くして、ついこの前、妹も亡くしてしまっただ。

## 櫻井

家族を亡くすって、哀しみが深いですね。でもヘンな話ですけど、父が亡くなって、初めて大人になれたような気がしたんです。父が一生けんめい育ててくれたから、これからもやっていける自信が芽生えるような。

## KONISHIKI

うん、わかる。ボクはお母さんに喜んでもらいたくて、自分ができることを精一杯やった。世界中どこにいても、毎日電話したり。アフリカからもチェコからも、必ず電話してた。ボクなりに、できることを精一杯やったから、お母さんが亡くなっても悔いがなかった。

## 自分の道を、自然に行こうよ。

盲導犬と一緒に  
よく声をかけても  
らえて、家にいる  
のがもったいない  
くらい。



盲導犬を通じて出  
合いが生まれて、  
豊かな人生まで運  
んで来てくれたみ  
たい。



盲導犬と一緒に楽  
しく暮らせる社会  
が実現できるよう  
がんばりたいです  
ね。



## 早川

私たちにとって、盲導犬も大切な家族なんですよ。目が見えないと一歩外に出ると危険がいっぱいで、出たいのに出られない。盲導犬が来てからは、自分が行きたい時に行けるようになりました。白杖で歩いていた時は、孤独だったんですけど、犬と一緒にだとかよく声をかけてもらえて、家にいるのがもったいないくらい。

## KONISHIKI

どんどん外に出て行って、たくさんの人に盲導犬のことを知ってもらおうことで、少しずつ日本も変わっていくと思うよ。

## 櫻井

私は白杖で歩いてて、駅のホームで何度か落ちたことがあって、3回くらい救急車で運ばれましたよ。それで主人が、盲導犬と歩けばと奨めてくれて。盲導犬のアンソニーを通じていろんな出会いが生まれて、豊かな人生まで運んで来てくれたみたい。

## KONISHIKI

自分が歩く道を歩けばいいんだよ。ボクも自分の道を探してる。でもまだ自分の道を見つけていない。みなさんが自分をしっかり持って、外に出て行って世の中の人に姿を見せるだけで、社会的にもすごく勉強になることだし、みなさんが盲導犬と一緒に楽しく暮らせる日を夢見て、夢への道をしっかり歩いていけば、きっと夢見た社会が実現できると思うよ。

## 内藤

絶対そうしたいですね。がんばりたいですね。

## KONISHIKI

でも、がんばりすぎて、ムリしないで。がんばりすぎると、負担になっちゃうからね。自分らしく普通に暮らして、みんなに自然に見てもらおうといい。ボクもムリしてがんばったりしない、とても自然にやってるよ。

# 全国盲導犬施設連合会 10年の歩み

全国盲導犬施設連合会が歩んできた10年の足跡と、その時代の大きなニュースを簡単にまとめてみました。天災、恐るべき犯罪、国際的な争乱の多かった10年でしたが、やがて福祉をはじめとして明るく楽しい出来ごとに満たされるよう、私たちは努力していきたいと思っています。

平成6年

1994

6月、全国の盲導犬協会8団体が集まり、連合会組織設立準備委員会が発足。

平成7年

1995

3月、全国盲導犬施設連合会設立総会。国家公安委員会、厚生省の認可を受けて活動している、北海道盲導犬協会、栃木盲導犬センター、日本盲導犬協会、アイメイト協会（同年12月退会）、中部盲導犬協会、関西盲導犬協会、日本ライトハウス、福岡盲導犬協会の8施設が加盟。4月、キャンペーンにあわせて幅広く盲導犬の認知と理解を促すための広報誌「デュエット」を発行。さらに、視覚障害者を対象として点字による季刊誌「盲導犬情報」を発行。東京都新宿区にて「全国盲導犬施設連合会発足記念式典」を開催。4～6月、全国的な視覚障害者福祉の意識啓発を目指し、「全国盲導犬普及キャンペーン」を開始。

●1月17日、阪神淡路大震災に見舞われ、3月20日には世界中を震撼させた地下鉄サリン事件が勃発するなど、哀しい事件が多かった一年。しかしプロ野球の野茂英雄選手が大リーグで新人王を獲得するなどの吉報も聞かれた。

平成8年

1996

4月、「盲導犬同伴可」ステッカーを作成。全国の公共施設、店舗、事業所などへ無償配布開始。同時に加盟施設への助成事業を開始。

●イギリスを皮切りに狂牛病騒動が起こり、O-157が各地で大流行。夏にはアトランタオリンピックが催された。

平成9年

1997

1月、盲導犬訓練の技術のレベルアップと全国的な平準化を目指し、第1回の「盲導犬訓練士養成研修会」を開催。

●4月に消費税がスタート。日本がサッカーW杯への初出場を決定するなど日本人の国際的な活躍が話題となった一年。しかし神戸で児童連続殺傷事件が起こるなど、子供を狙った凶悪事件が増加。

平成10年

1998

11月、日本財団の助成のもとに、「盲導犬に関するアンケート調査」を実施。

●2月には長野県を舞台とした冬季オリンピックが開催され、ジャンプ団体、スケート男子500mなどで日本が金メダルを獲得。4月、明石海峡大橋開通、金融ビッグバン始動などのニュースが聞かれた。

平成11年

1999

1月、欧州11カ国が加盟して単一通貨であるユーロが始動。夏から秋にかけて世界的に自然災害が発生した年となった。

平成12年

2000

3月、平成10年に実施したアンケート調査の結果・分析をもとに「盲導犬に関する提言」をまとめ、関係団体、行政、マスコミなどへ向けて発表。

●2月29日、400年に一度のうるう年が巡ってきた。10月6日、鳥取県西部で震度6の地震が起こる。

平成13年

2001

3月、アジアにおける盲導犬育成・普及について意見交換するために、韓国盲導犬協会との懇談会を開催。4月、兵庫盲導犬協会が入会。また、盲導犬訓練技術の全国的なレベルアップと平準化を目指し「盲導犬訓練士養成テキスト」を作成。

●4月、第1次小泉内閣が発足。6月、大阪・池田小学校で複数の児童が刺殺される傷ましい事件が起こった。8月、失業率が初の5%台に。9月11日、米国で同時多発テロ。9月にはマラソンの高橋尚子選手が、ベルリン・マラソンで女子世界最高記録を達成するうれしいニュースもあった。

平成14年

2002

4月、「盲導犬受け入れハンドブック」発行。全国の小中学校へ向けて、「盲導犬啓発キャンペーン」を開始。5月、身体障害者補助犬関連の法整備が進められ、10月に「身体障害者補助犬法」が一部施行された。

●2月、アニメ「千と千尋の神隠し」がベルリン国際映画賞の最高賞を受賞、10月には小柴昌俊氏がノーベル物理学賞、田中耕一氏がノーベル化学賞を受賞。9月に日朝首脳会談が実現し、拉致被害者5人が翌月に帰国を果たした。

平成15年

2003

10月1日から「身体障害者補助犬法」が全面施行、身体障害者補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)を同伴することができる施設が、これまでの国・地方公共団体・公共交通機関などの公共施設等に加えて、不特定かつ多数の者が利用するホテル、デパート、レストラン、旅行会社の営業所等に広がる。

●3月、米英軍がイラクと開戦。戦争とインフルエンザ、原因不明の肺炎(SARS)の猛威に震え上がった一年。9月にはマグニチュード8、震度6の十勝沖地震、12月にはイラン南東部地震が起こる。

平成16年

2004

2月、盲導犬繁殖の調査研究のためにアメリカの3つの盲導犬協会を視察訪問。5月、世界各国の盲導犬訓練施設から代表が集まる国際盲導犬連盟主催のセミナーに、加盟施設の職員6名を派遣。

●8月にオリンピック・アテネ大会が開幕し、日本のメダルラッシュに。9月、プロ野球の再編問題で初のストライキ。10月には、米大リーグでイチロー選手が今季通算259本を打ち、84年ぶりに最多安打記録を塗り替えた。日本全域が連続して大型台風の直撃を受け、23日には新潟で震度6強の大地震が起こる。12月にはスマトラ沖大地震、巨大津波がアジア、アフリカの広い地域に被害を及ぼす。

## ～これまでの10年、これからの10年～

全国盲導犬施設連合会は、「盲導犬施設が、緊密な連携のもとに盲導犬の育成・普及をはかり、もって視覚障害者の福祉向上に寄与する」ことを目的に、今から10年前の1995年に発足しました。そして、発足以来、「共に生きる、共に歩む」というスローガンを掲げて「全国盲導犬キャンペーン」や「盲導犬事業に関する全国的な調査」、「盲導犬歩行指導員等の養成に対する助成」をはじめとしてさまざまな活動を行ってまいりました(8～9ページをご参照ください)。

これらの活動は、95年度末に783頭であった盲導犬が2003年度末には948頭と150頭以上増えたこと。また、身体障害者補助犬法の施行など、盲導犬を使用する視覚障害者や盲導犬に対する社会の理解が深まったことにおいて、推進役として一定の役割を果たせたものと思っております。

これからの10年は、盲導犬希望者7,800人(推定)に対し、現在活動している盲導犬948頭(平成16年3月末現在)という現状を、盲導犬を必要とする視覚障害者に、待たずに貸与できる状況をつくっていくことです。そのために連合会は、盲導犬育成施設と協力して、訓練士養成と盲導犬に適した犬の繁殖の問題を解決するシステムの確立が急がれています。

これまでの10年にいただきましたご支援に心から感謝いたしますとともに、これからの10年におきましても、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## もっともっと、盲導犬を。

### 盲導犬ユーザーからの、メッセージ。

全国盲導犬施設連合会は、盲導犬ユーザーが組織している全日本盲導犬使用者の会と親しく連携し、さまざまな情報や意見を交換しながら、各種の事業を実施しています。同会の盲導犬ユーザーの方々から、「ともに生きる、ともに歩む」をテーマにメッセージをいただきました。

### 盲導犬ユーザーの声



全日本盲導犬  
使用者の会 会長

清水 和行

パートナー：クーリー  
盲導犬ユーザー歴：16年

全日本盲導犬使用者の会は1994年に発足し、それまで交流のなかった全国の使用者が育成施設の枠を超えて親睦や啓発活動を行っています。現在会員は賛助会員を含め500名ほどおります。翌年、育成施設もアイメイト協会を除く8施設が一本化され、全国盲導犬施設連合会が誕生しました。それまで使用者も育成施設もばらばらに活動してきましたが、それぞれの組織が協力して行くことで、盲導犬事業がより効果的に推進できる体制が確立されたわけです。使用者なくして盲導犬の育成なし、盲導犬の育成なくして使用者なしというわけです。今年は身体障害者補助犬法の改正について検討が行われる年であり、今後は盲導犬事業の更なる発展のために、これまでも増して両者の協力が期待されています。



林 克之

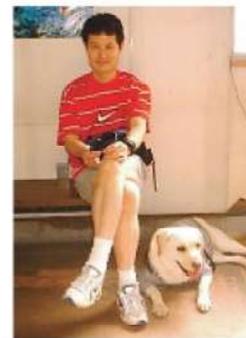
パートナー：ベッキー  
盲導犬ユーザー歴：7年

阪神淡路を大地震が襲った前年、ぼくは失明した。ある日を境にひとりではどこへも出かけられなくなってしまった。それはとてもさみしく、とても悲しいことだった。ぼくは盲導犬と歩くことを選んだ。どうしても一人で歩きたかった。見えていたころのように、当てもなく町をうろついてみたかった。そしてその願いを盲導犬はかなえてくれた。

早朝の町をぼくはベッキーと歩く。何のために？ 健康のため？ そんなことは考えたこともない。のんびりぼんやり歩くことがわけもなく楽しい。散歩こそが盲導犬の与えてくれた最高の喜び、最高の贅沢。

気がつくとなんか新しい友達が増えた。新しい出会いが数え切れないほど。そうか！ これもまた盲導犬のくれたプレゼントなんだ。

### 盲導犬ユーザーの声



渡辺 宏

パートナー：うらら  
盲導犬ユーザー歴：8年

私が盲導犬と暮らすきっかけとなったのは、2人いる息子がまだ幼いころ私はいつも長男（当時年長）の小さな手につかまり誘導してもらっておりました。いつものように家族でスーパーへ買い物に出かけた際、当然のように長男の手を握って店内を誘導してもらっていると目の前を走り回る弟のほうを向きながら「いいな自由に動いて・・・」と私の手を握ったままあまりにも自然に一言もらしたのです。私はそれを聞いて立ちすくんでしまいました。「ああ私の自由のため

に、こんな幼子の自由を奪ってしまっていたなんて」ショックでした。都合よく親を気取り、じつは自分の満足のために息子を束縛していたことに。そんなとき盲学校の先生が盲導犬を使用するようになり盲導犬の素晴らしさと家族みんながそれぞれの充実を図ることの出来る喜びを知り「これしかない！」と決断し盲導犬うららと出会いました。あれから8年息子達も大きくなり、私に手を差し伸べてくれます。その優しさも共に暮らした盲導犬が息子達に伝えてくれたものなのだ実感しております。ありがとう！うらら長生きしてね。

### 盲導犬ユーザーの声



**澤田 理絵** | パートナー：オーナー  
盲導犬ユーザー歴：18年

私はこの8年間に、2頭のパートナーと暮らしてきました。彼女たちは歩行の際の私の眼となってくれるだけにとどまらず、それ以上のウエイトで心の支えになってくれている。

大学卒業と同時に盲導犬とであった私にとって、パートナーとの第1歩は歌手という仕事に足を踏み入れたことだった。その後、結婚、出産、育児などの経験にすべて付き合ってくれている。

傍らに伏せてやさしく見守ってくれたり、恋人や子供たちにやきもちを焼いてすこしいたずらをして困らせてくれたりといろいろな表情を見るにつれ、親密さがどんどん深まっていく。

今日もハーネスのかちゃかちゃとなる音が心地よく響く。いとしいもののやわらかく暖かい感触を左ももで味わいながら私たちは歩く。未知の場所、心踊る出来事、そしてすてきな人々と出会うために。

### 盲導犬ユーザーの声



**栗田 陽子** | パートナー：レベッカ  
盲導犬ユーザー歴：9年（2頭目）

私が盲導犬に導かれ、初めて街を歩いた日。交差点や脇道、段差のある所では、ぴたりと止まって、障害物を避けて歩く姿に感動しました。「人間が犬のぬいぐるみを着ているのでは？」と思えるほど驚きました。盲導犬と歩くようになって、日差しの温もり、頬を撫で、心地よく過ぎ行く風、草花の香りなど、街の風景や季節の移り変わりを楽しむことが出来るようになりました。

「さあ、出かけるよ」とレベッカに声を掛けると、玄関へダッシュする足音が家中にシャカシャカと響きます。私は、毎朝この足音を聞き、レベッカのハーネスを握り、一歩二歩と足を踏み出す時、私の心の中には、今日、明日への期待が膨らみ、いつでも何処へでも自由に出かけることが出来る喜びを改めて感じます。

「レベッカ、ありがとう」

# 全国盲導犬施設連合会は、 こんな働きをしています。



福祉活動に便乗した街頭募金などご注意ください。

## 連合会の役割

1. 盲導犬事業発展のための各施設間の相互協力
2. 盲導犬普及に関する啓発活動
3. 盲導犬事業に関する国際的交流と協力
4. 盲導犬事業に携わる訓練士の育成支援並びに研修活動
5. 盲導犬事業発展のための行政機関への働きかけ並びに関係諸団体との相互協力
6. 盲導犬使用者団体との相互協力と支援
7. 各盲導犬育成施設の財政基盤確立のための支援
8. 盲導犬事業に関する調査・研究

## 主な活動

### 【盲導犬の普及と啓発】

#### ■全国盲導犬普及キャンペーン

毎年4月から、盲導犬への理解を促すための全国キャンペーンを実施。あわせて、盲導犬の広報誌『デュエット』と啓発ポスターを発行し、募金箱設置店を中心に配布しています。

#### ■加盟盲導犬施設への資金助成

『全国盲導犬基金』から、全国の加盟施設に活動助成金を分配しています。助成金は、(1)盲導犬訓練士養成、(2)繁殖犬購入、(3)盲導犬賞与事業などに活用されます。

#### ■盲導犬受け入れ促進事業

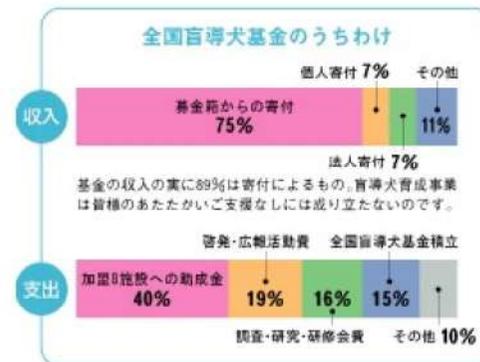
『補助犬同伴可ステッカー』を作成し、全国の公共施設や店舗・企業に配布しています。また『盲導犬ハンドブック』も発行して配布しています。

#### ■全国小中学校を対象とする盲導犬啓発キャンペーン

毎年全国各地からおよそ100の小中学校を選定し、加盟施設の協力を得て盲導犬啓発キャンペーンを展開しています。子供たちに盲導犬についての知識を深めてもらっています。

#### ■盲導犬育成募金活動

スーパー、チェーンストアの店舗に約6000個の募金箱を設置。寄せられた募金は、国内全体の盲導犬育成普及を支えるための『全国盲導犬基金』として管理・運用しています。



## [盲導犬育成の環境整備と向上]

### ■盲導犬訓練士の養成事業

盲導犬訓練士のレベルアップのために『研修会』を開催。また、訓練技術の地域格差を解消し、高水準化するために『訓練士養成テキスト』を作成し加盟施設に提供しています。

### ■国際交流事業

A G B Nとの連携をはじめ、欧米の福祉先進国との交流を活発に行い、障害者福祉と盲導犬に関する調査・研究を行っています。



## [視覚障害者の生活改善と社会参加促進]

### ■盲導犬使用者への支援事業

身体障害者補助犬法の施行に伴う法的な環境変化に対応できるように、盲導犬ユーザーのための『補助犬表示用ハーネスバッグ』と『補助犬健康管理手帳』を作成・配布しています。



### ■全日本盲導犬使用者の会への助成

盲導犬ユーザーが組織する『全日本盲導犬使用者の会』の活動を支援するために、助成金を提供しています。資金は使用者の会が主催する各種の行事などに活用されています。

### ■季刊誌「盲導犬情報」発行

視覚障害者の方たちに、盲導犬育成の最新情報や、盲導犬利用の利点や注意点などを知っていただくために、季刊誌『盲導犬情報』を発行しています。

## 街で盲導犬に出会ったときは。

### ハーネスをつけているときは、作事中です。

ハーネス（胴輪）をつけている盲導犬には、声をかけたり、口笛を吹いたり、なでたり、気を引くようなことはしないでください。気がちると、安全に盲導犬ユーザーを誘導する仕事ができなくなることがあります。



健康管理を考えて、  
ドッグフードしか  
食べないんだよ。

### 作中の盲導犬には、食べ物を与えないでください。

盲導犬の食事時間はきちんと決まっています。盲導犬ユーザーとともに規則正しい生活をしています。これはお互いの信頼関係と盲導犬の健康を保つためにとっても大切なことです。かわいいと思っても、ぜったいに食べ物をあげたりしないでください。



何かあったら  
盲導犬ユーザーに  
声をかけてね。

### ハーネスには、触らないでください。

盲導犬ユーザーはハーネスによって、盲導犬のようすや道の状況を確認します。ハーネスはお互いをつなぐとても大切な道具です。ハーネスに触られると、盲導犬ユーザーも盲導犬も判断を誤るおそれがありますので、ハーネスにはぜったいに触らないようにしてください。

### どうぞ、あたたかく見守ってあげてください。

盲導犬は特別な訓練を受けていますから、吠えたりかんだりすることはありません。しかし、ときには安全のためや周りに迷惑をかけないために叱らなければならないこともあります。そんなとき、いちばんつらいのは盲導犬ユーザーです。犬が苦手な方も、大好きな方も、あたたかく見守っててください。



作中は  
気が散らないように、  
そっと見守ってね。

## 補助犬OK!の気持ちは、ステッカーで表示を。

全国盲導犬施設連合会では、身体障害者補助犬法の施行にあわせて、盲導犬だけではなく介助犬も聴導犬も受け入れるという意思表示をしていただくため「補助犬同伴可ステッカー」を作成しました。本ステッカーは1枚25円にて頒布しています。街中のあらゆる場所に温かい心を伝えるために、どうぞご利用ください。



街中に、  
このステッカーが  
増えていきますように。



## 都道府県別の盲導犬の実働数は948頭

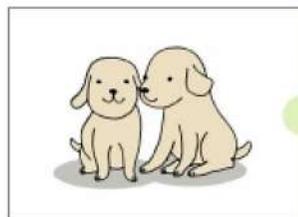
2004年3月31日現在

北海道 38	栃木県 18	新潟県 22	三重県 8	鳥取県 8	福岡県 14
札幌市 21	群馬県 8	富山県 9	滋賀県 7	島根県 10	福岡市 7
青森県 2	埼玉県 46	石川県 28	京都府 8	岡山県 14	北九州市 7
岩手県 13	さいたま市 5	福井県 6	京都市 7	広島県 22	佐賀県 10
宮城県 7	千葉県 26	山梨県 10	大阪府 33	広島市 7	長崎県 8
仙台市 4	千葉市 4	長野県 27	大阪市 29	山口県 14	熊本県 18
秋田県 16	東京都 78	静岡県 34	兵庫県 39	徳島県 7	大分県 13
山形県 5	神奈川県 23	愛知県 20	神戸市 15	香川県 6	宮崎県 13
福島県 8	横浜市 19	名古屋市 14	奈良県 14	愛媛県 16	鹿児島県 21
茨城県 19	川崎市 5	岐阜県 12	和歌山県 11	高知県 9	沖縄県 6

# 盲導犬は、こんな一生を送ります。

## 1. 誕生

国内で計画的に繁殖したり、海外から優秀な血統の仔犬を購入します。



生まれたときは、  
ふつうの可愛い  
仔犬だよ。

## 2. 生後2ヶ月頃

パピーウォーカー（仔犬育成ボランティア）の家庭に預けられ、愛情をこめて育ててもらいます。この時期に人間との深い愛情と信頼関係を育まれます。

## 3. 1歳の頃

パピーウォーカーのもとから、盲導犬訓練センターに入所。ここで約10ヶ月間の訓練を行います。その間に盲導犬としての適性を評価します。すべての訓練に合格した犬だけが、その後、盲導犬使用希望者との4週間（代替えの時は2週間）の共同訓練に進みます。



パピーウォーカーの  
お家で、  
元気に暮らすんだ。

## 4. 訓練所卒業

盲導犬使用希望者との4週間の共同生活の中で、互いに共に歩く技術を学び、信頼を築きます。この期間は、人間も犬も一緒に汗を流して努力する共同作業。お互いの存在を認め合い、パートナーとしてのきずなを結んで、一緒に卒業します。



ちゃんとしてると、  
ほめられるから、  
楽しいね。

## 5. 現地訓練

盲導犬ユーザーとなった視覚障害者の実際の生活エリアで、歩行指導員が同伴してさらに訓練を行います。歩行の安全確保のために欠かせない訓練であり、盲導犬もこの期間に自分が主に活躍する場の地理や環境を知ります。

## 6. 共に歩く

一人前の盲導犬として、視覚障害者のパートナーとして、共に生活します。ユーザーと盲導犬は、互いに互いを必要とする深い信頼で結ばれた、文字通りの伴侶として喜ばれます。10～12年間、盲導犬として活躍します。



ボクたちは、  
パートナーといつも  
一緒なんだよ。

## 7. 引退

盲導犬は、視覚障害者と犬自身の安全のために、約10～12歳ごろで引退します。その後は退役犬ボランティアの家庭か訓練施設でのんびり老後を過ごします。

## ご注意下さい！ 悪質な二セ募金活動

「補助犬または、盲導犬・介助犬・聴導犬の育成の為に」と、うたう街頭募金活動が全国で見られますが、その中に市民のみなさまの善意を利用する悪質な団体が存在しています。疑問に思われる募金活動を見かけましたら“目的は何なのか”“寄付がどこに行くのか”などをお聞きになり、納得して頂いた上で募金をお願いします。国内で正式に盲導犬を育成している施設は9施設です。ご協力を頂く際には、正式な認可施設及び全国盲導犬施設連合会の名称・マーク等をご確認ください。●（財）北海道盲導犬協会 ●（財）栃木盲導犬センター ●（財）日本盲導犬協会 ●（財）アイメイト協会 ●（財）中部盲導犬協会 ●（財）関西盲導犬協会 ●（社福）日本ライトハウス ●（社福）兵庫盲導犬協会 ●（財）九州盲導犬協会

市民のみなさまの善意を利用する悪質な福祉便乗活動には十分ご注意ください。

# 主な活動報告

盲導犬育成事業にご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。平成16年度も全国の皆さまをはじめ、募金箱設置店、協賛各社のご支援のもとに活動してきました。昨年度は映画「クイール」の上映もあり、盲導犬への関心が一段と高まりました。当連合会もクイール上映会場での実演やクイール写真展等へ積極的に協力しました。今年度も皆さまの温かいご支援とご協力をお願いします。

## 「盲導犬啓発キャンペーン」を 全国83ヶ所で実施

当連合会募金箱設置協力店のご協力を得て店頭での「盲導犬啓発デモンストレーション」の実施、クイール上映会場においての実演など、啓発キャンペーンを実施しました。全国で活動している盲導犬は948頭（平成16年3月31日現在）、盲導犬を一人でも多くの皆さまに知っていただく機会として積極的に取り組んでいます。

## 補助犬法の啓発活動



日本財団の助成により「補助犬法」パンフと「盲導犬ハンドブック改訂版」パンフを作成しました。昨年に続き「補助犬同伴可」ステッカーを配布しました。

## 盲導犬普及ための 広報誌の発行



「デュエット」13号の発行（年1回4月発行）。特集として「補助犬法のその後」を取り上げました。当連合会募金箱に備え付け、ご自由にお取りいただいています。季刊誌「盲導犬情報」発行。「補助犬法」の周知状況等の特集。視覚障害者や視覚障害関係の団体に盲導犬のことを知ってもらうためのPR誌です。点字版・墨字版・テープ版を作成しています。2004盲導犬受入ポスターの作成。主に募金箱設置店舗に掲示していただいています。

## ホームページの開設(運営) (<http://gd-rengokai.jp>)

企業さまのご協力によりホームページを立ち上げました。まだ内容等は不十分ですが、皆さんの声を取り上げながら、内容の充実をはかっていきます。

## 国際交流



日本財団の助成を受けて国際盲導犬連盟主催セミナー（スイスにて開催）に訓練士を派遣しました。また、日本の盲導犬事情を紹介するため英語版DVD「知ってください盲導犬のこと」を製作し、連盟加盟各国の盲導犬施設に配布しました。

## 小中学校盲導犬 啓発授業の実施



平成14年から日本財団の助成を受け、この3年間全国の小中学校で「盲導犬啓発学習」を展開してきました。今年度も100校で実施しました。

## 訓練士養成のための研修会の開催

日本財団の助成を受けて、加盟施設の職員を対象に11月と1月の2回にわたり、京都で研修会を開催しました。(1)各施設における盲導犬の訓練方法や犬舎の管理や犬の適性評価等盲導犬育成について、(2)犬の歴史や犬の繁殖について、(3)社会福祉事業の中の盲導犬事業、視覚障害者のリハビリテーション等多岐にわたる講義が行われました。